

令和7年度世田谷区立旭小学校学校関係者評価委員会報告

世田谷区立旭小学校
校長 風間 淑江 殿

令和8年 2月10日
世田谷区立旭小学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価アンケート調査に基づき、校長・副校長との意見交換を行い、旭小学校の教育活動や学校運営について評価を行った。評価をするにあたっては、学校公開・行事等の参観とこれまでと同様、児童・家庭・地域の客観的な現状把握を行い、学校の成果と課題を分析した。結果を以下のとおり報告する。

I 【学校関係者評価アンケート調査】

《総評と提言》

今年度は共通項目・独自項目の質問を各学校で選択できるようになり、旭小学校では質問内容を厳選し回答しやすいように改善した。保護者の回答率は58.8%と昨年度と変わらず低かった。(ただし家庭数では70.8%) 各ご家庭のお子さまの人数での回答で、よりの確かな分析を行えると考えており、全保護者に学校関係者評価システムの目的と児童数での回答を周知していきたい。評価アンケートは、児童・保護者・地域からの学校への意見として、改めて来年度の回答へのご協力をお願いしたい。

児童は全体の評価は高く、学校生活が順調な様子が伺える。気になる項目としては『相手を思いやった言葉や行動』全体77.9%。(6年生82.2%、5年生73.1%)この数値との関係性は調査していないが、YouTubeなどの影響によるセンシティブな言葉を、相手や周囲の人がどのように感じ取るかを考えずに大声で使用している様子が報告されている。

【提言】「YouTubeを観てはいけない」「その言葉は使ってはいけない」ではなく、その言葉の意味を教え考えさせる機会を、児童に関わる全ての大人が気にかける必要がある。また低学年から正しい知識を伝える工夫を、学校だけでなく保護者・地域にもご協力をお願いしたい。

地域については、来校する機会が減っているため正確な回答が難しいが、登校時の通学路の見回り(見守り隊)・昔遊び・読み聞かせ(クッキーズ)・漢検、あさひっ子スタディ(学校支援コーディネーター)・わくわく隊(芝生イベント)等、日常的にたくさんの方々がボランティアで児童を見守ってくださっている。

回答数及び回答率

- ・保護者 590名中 347名 (回答率58.8% ※昨年度54.0%)
- ・5、6年児童: 186名中 168名 (回答率90.3% ※昨年度88.0%)
- ・地域の方: 41名中 24名から回答 (回答率58.5% ※昨年度64名中25名 39.0%)

調査結果の分析・評価

☆ 個別評価結果について A (とても思う) + B (思う) を「肯定的評価」として、C (あまり思わない) + D (思わない) を「否定的評価」として記述する。

☆ また、A (とても思う) + B (思う) が 75%以上を「良い評価」の目安とした。

※これ以降 文中の%表示は肯定的評価数 (A + B) を表す。

《学習について》

○児童は『先生は課題について考える時間を授業の中で取っている』全体 88.7% 『授業では話し合ったり発表し合ったりする機会がある』全体 91.1% 『映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業』全体 89.3%と肯定的評価が高い。『学ぶことが楽しい』全体 73.8%だが、5年生の否定的評価が 24.3%と高い。

《生活について》

○児童は今年度も全体の評価は高い。『相手を思いやった言葉や行動』全体 77.9% (6年生 82.2%、5年生 73.1%) 『自分や友達によさに気付く』全体 81% (6年生 87.6%、5年生 74.4%)と少し差があり5年生に関しては両項目の否定的評価の高さが気になる。

○保護者は『相手を思いやった言葉や行動』全体 70.9%で否定的評価が 22.5%と高い。『自分からあいさつができています』全体 69.5%で否定的評価は 26.8%。『自分から』という文言が評価を低くしている原因とも考えられるが、児童が知らない人とは話さないことで身を守る時代ではあっても、あいさつすることで顔見知りが増え、児童自身を守ることにもなる。まずは大人から積極的にあいさつという声かけで、児童を安心させてほしい。

《学校行事について》

○児童は『学校行事は楽しい』全体 91.6%、『達成感がある』全体 86.3%と高い。

○保護者は『学校行事は子どもにとって楽しい』全体 94.8%、『子どもにとって達成感がある』全体 93.9%と例年通り評価が高い。

《先生について》

○児童は『先生はていねいに指導してくれる』全体 91.1%と評価は高い。『先生たちに相談できる』全体 72.6%は昨年度よりかなり上がっている。否定的評価は 17.3% (昨年度 34.8%)。先生方の丁寧な対応の様子が伺える。一方で E「わからない」が 10.1%あった。理由を探る必要があるが、先生以外にも相談できる環境が整ってきた成果とも考えられる。相談できる大人の存在は必要であり、先生・家族以外の大人にも相談できるということを引き続き周知してほしい。

*スクールカウンセラーからは「困ったことがあった時に誰かに相談することは、新たな選択肢に気付くために必要なプロセス。困ったときに SOS を出す力を育てていくことが大切な資源になる。」とメッセージもありました。

《全般について》

○児童は『学校生活は楽しい』全体 89.2% 『学校が好き』全体 74.4% (昨年度 66.1%)。この項目は否定的評価が全体 22%と高い。楽しいと好きの違い、他に楽しいこと好きなことがあるなど児童の考え方の多様性とも考えられる。

○保護者は『学校生活は子どもにとって楽しい』全体 88.2%と評価が高い。『キャリアパスポートを活用し目標を持たせ支援している』全体 59.9%。E「わからない」の数値は昨年度より少し下がった。キャリアパスポートについては、学校も保護者会やおたより等で周知する工夫をしている。中学校でも活用していくので、意識をもって気にかけていただくことをお願いしたい。

*キャリア教育とは・・・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」(平成 23 年 1 月 31 日)

*キャリアとは・・・人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担

いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

【教職員による自己点検 分析】

A…十分到達 B…おおむね到達 C…やや不十分 D…不十分

1 「知」の項目

重点目標「見方・考え方や身に付けた力を振り返り、新たな問いを見いだす子どもの育成」に努めている。

R6 A…8.0% B…92.0% C…0% D…0%

R7 A…42.1% B…50.0% C…7.1% D…0%

学校目標「よく考える子ども」に近づいている。

R6 A…0% B…100% C…0% D…0%

R7 A…31.0% B…62.1% C…6.9% D…0%

- ・ 重点目標、学校目標に対するA評価の数値が大きく向上している。
- ・ 「せたがや探究的な学び」で求められている、探究的な学びのサイクル、特に「学んだことを振り返り新たな問いを見いだす」プロセスを充実させるために引き続き、1単位時間における導入・発問・振り返りの工夫、ICT機器の効果的な活用、学習意欲を高める学習過程や教材の工夫等、楽しい授業の実現に向けて、授業改善を継続していく。
- ・ 今年度の校内研究主題「自ら課題をもち、主体的に学ぶ児童の育成」で国語・算数・体育に焦点を当て取り組む中で、教職員全員が新たな問いを見いだせるような手立てを考えてきた。来年度は、「せたがや探究的な学び」を推進していくために、「共感・協働する学び」を基盤として、授業を通して児童一人一人の「探究のプロセス」を確立する。
校内研究の研究主題を『学ぶことが楽しい児童の育成～わくわくする授業づくりを通して～』とし、授業改善を図る。
- ・ 自分で考えて「これを知りたい」と納得できる問いを見だし、それぞれが個性や能力を発揮しやすい方法で調べ、考え、結果を共有する授業を目指す。「教師が教える」授業から「自分で考えて、『これを知りたい』と納得できる問いを見付けたり、それぞれが個性や能力を発揮しやすい方法で調べたり考えたりする」授業へ教員自身の姿勢を変えることで「よく考える子ども」の育成を図る。

2 「徳」の項目

重点目標「互いのよさを認め合い、自他ともに尊重し合う子どもの育成」に努めている。

R6 A…39.0% B…61.0% C…0% D…0%

R7 A…69.0% B…27.6% C…3.4% D…0%

学校目標「思いやりのある子ども」に近づいている。

R6 A…28.0% B…32.0% C…0% D…0%

R7 A…44.8% B…44.8% C…10.3% D…0%

- ・ A 評価が大きく向上している要因としては、平成 30 年より研究を重ねていた東京都教育委員会人権尊重教育推進校としてのレガシーを生かした「人権の花」「人権集会」「あいさつ運動」等の取組、響きの学び舎で共通して取り組んでいる「相手を大切に作る心」「あいさつ」等、保護者・地域・学校が三位一体となって注力している成果が表れていると考えられる。
- ・ C 評価の数値が増加している要因としては、子ども同士のトラブルが発生した際に、自分たちで解決することができずに、教師が介入して、解決していかなければならない事案が増加していることが考えられる。また、子どもたちの思いやりのない行動でトラブルが発生していることもその要因として考えられる。

3 「体」の項目

R6 重点目標「体力を向上し、健康の保持・増進を図る子どもの育成」に努めている。

R7 重点目標「スポーツへの情意を向上し、健康の保持・増進を図る子どもの育成」に努めている。

R6 A…0% B…85.0% C…15.0% D…0%

R7 A…37.9% B…55.2% C…6.9% D…0%

学校目標「元気にやりぬく子ども」に近づいている。

R6 A…12.0% B…88.0% C…0% D…0%

R7 A…41.4% B…55.2% C…3.4% D…0%

- ・ 「体力・健康」に関わる項目について、昨年と比較すると A「十分達成」の数値が大きく向上している。また、「やや不十分」と回答している教員が若干名いる状況である。
- ・ 学校全体の取組として運動朝会における長縄・短縄への取組を行っているが、心身の健康にもつながる体力向上に向け、まずはスポーツへの情意向上や多様性への理解を図れるような授業の実践、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことのできる運動への取組、外遊びや集団遊びの奨励等、児童の日常的な運動習慣の形成を図れるようにしていく必要がある。
- ・ 休み時間に、教室内に残らず体を動かす遊びを促し、日常的に運動に親しむ機会を増やしていく。
- ・ 今年度、A の評価が大きく向上したのは、体育授業の充実を図るために校内研究で体育科を取り上げた成果と考えられる。

令和 7 年度 旭小学校学校関係者評価委員会

委員長 前川 由美

伊津 雅弘

谷戸 玲子

井上 美佳

深澤 起子

伊藤 珠絵

川上 裕佳子